



人型ロボット（ヒューマノイド）産業・特許動向レポート 2026

エグゼクティブサマリー

人型ロボット（ヒューマノイド）産業は、2025年を「量産元年」として実証段階から商用展開フェーズへ明確に移行しつつある。IDCの最新データによると、2025年の世界出荷台数は前年比508%増の1万7,800台（売上高約4億4,000万ドル）に達する見込みであり、累計受注台数も3万5,000台を超えると予測される。市場を牽引するのは圧倒的に中国メーカーであり、出荷台数・特許出願数・サプライチェーン支配力のすべてにおいて優位に立っている。一方、米国勢は高付加価値技術・AIソフトウェア・資金調達力で対抗し、「ハードウェアは中国、頭脳は米国」という構造的分業が崩れ始めている。特許戦略面では、スマートフォン特許戦争の歴史が繰り返されるリスクが指摘されており、IP戦略の重要性が急激に高まっている。

1. 市場規模と成長予測

2025年の現況

市場規模については調査機関によって推計が異なるが、全体的傾向として急拡大が確認されている。主要機関の予測は以下の通りである。[¹][²][³]

調査機関	2025年市場規模	予測値	CAGR
GlobeNewswire	USD 2.92B	2030年: USD 15.26B	39.2%
Mordor Intelligence	USD 3.93B (2026年)	2031年: USD 17.80B	35.3%
TBRC/GII	USD 54.4B	2026年: USD 83.2B	52.9%
IDTechEx	-	2036年: USD 29.5B	-
Roland Berger	-	2035年: USD 300-750B (OEM)	-

Morgan Stanley (参考)	-	2050年: USD 5T	-
---------------------	---	---------------	---

調査機関によって「市場規模」の定義（出荷金額のみか、ソフトウェア・サービス含むか等）が異なるため幅が広いが、いずれも年率30～50%以上の急成長を予測している点は一致している。Roland Bergerは2035年のOEMレベル市場をベースシナリオで3,000億ドル、楽観シナリオで7,500億ドル、長期（2050年）で4兆ドルと試算しており、現在の自動車産業に匹敵する規模になる可能性を示唆している。^{[4][5][6]}

出荷台数の見通し

矢野経済研究所（2026年3月）の調査では、2035年の世界ヒューマノイド出荷台数を約718万台（CAGR 83.5%）と予測している。Goldman Sachsは2035年の出荷台数を140万台、市場規模を380億ドルと見積もっており（2025年11月時点の上方修正後）、製造コストが年40%で低下すれば2030年には1台5,000～10,000ドルの可能性もあるとしている。^{[7][8]}

2. 産業動向：量産競争の構図

2-1. 中国メーカーの圧倒的な先行

2025年のグローバル出荷台数は1万3,000～1万7,800台規模（調査機関によって差異あり）で推移し、このうち中国メーカーが約90%を占めた。^[9]

主要中国メーカーの2025年出荷・生産実績

企業	2025年出荷台数（概算）	備考
智元機器人 (Agibot)	約5,000台	業界首位
宇樹科技 (Unitree Robotics)	約5,000台	米国勢の36倍以上
樂聚智能 (Leju Robotics)	1,000台規模	
加速進化 (Booster Robotics)	1,000台規模	
優必選科技 (UBTECH)	1,079台（フルサイズ）	売上高+2,203% YoY

銀河通用機器人 (Galbot)	400~1,000台	
衆擎機器人 (Engine AI)	400~1,000台	
星動紀元 (ROBOTERA) 等	100台以上	

中国がこれほど短期間で量産体制を確立できた背景として、EV産業を通じて培われた世界最高水準のサプライチェーン（アクチュエータ・センサー・バッテリー・電動モーター）がある。中国のサプライチェーン研究者は「中国のエコシステムはR&D・サプライチェーン・製造・統合・顧客展開の全サイクルを極めて短い周期で回せる。これにより試作から実世界展開まで他国が追従困難なペースで進められる」と指摘している。〔10〕

2-2. 米国勢の状況

米国の主要プレイヤーは依然として技術実証・高品質プロトタイプ段階にある。〔11〕〔9〕

- **Tesla (Optimus)**：2025年末時点でもほぼ量産未達。Musk氏は2025年1月に「1万台生産」と宣言したが、2026年1月時点で「有用な仕事をしているユニットはゼロ」と認めた。2026年Q2にFremont工場のModel S/X生産ラインをOptimus製造ラインに転換する大規模投資を実行。〔12〕〔13〕
- **Figure AI**：BMWの自動車工場ラインでFigure 02の実証を継続。数十台規模の商業出荷。〔14〕
- **Boston Dynamics (Hyundai傘下)**：CES 2026でAtlasの量産モデルを発表、研究・特殊用途を中心に展開。〔15〕
- **Agility Robotics (Amazon傘下)**：Amazon倉庫での「Digit」実証が継続。〔16〕

Morgan Stanleyはテスラがオプティマス生産において中国のサプライチェーンを排除した場合、アクチュエータコストが2.2万ドルから5.8万ドル、半導体・ソフトウェアコストが3,000ドルから7,000ドルへ上昇し、部品原価が約3倍に増大すると試算している。〔17〕

2-3. 製品形態と応用分野の拡張

製品形態別では、二足歩行型が売上高の66.3%を占め、フルサイズモデルが最大シェア（41.6%）を占める。応用分野は、これまでの研究・R&D目的から以下の実用的シーンへ急速に拡大している。〔18〕

- **製造・自動車工場**（最初の大規模採用市場）：BMW、Stellantis、Zeekr等が試験導入
- **物流・倉庫**（次のフロンティア）：Amazon、GXO Logisticsでの実証

- **エンターテインメント・教育**: AI学習データ収集用途も急増
- **医療・介護・家庭**: 中長期ターゲットとして各社が開発中

2025年は「産業用製造・自動車製造の量産元年」と位置づけられており、家庭用市場は2026年から米国で立ち上がりが期待されている。〔7〕

2-4. 競争軸の変化

IDCの分析によると、今後の競争は単なるハードウェア販売から技術サービス・エコシステム構築へと深化していく。主要な競争軸の変化は以下の通りである。〔19〕〔18〕

1. **ハードウェア → ソフトウェア・プラットフォーム**: NVIDIAのIsaac、Google DeepMind等の「ロボットAI基盤モデル」が競争優位の源泉に
2. **単体販売 → RaaS (Robot as a Service)**: 運用コストがRoland Berger試算で時給2ドル以下になる見通し〔20〕
3. **個別製品 → 標準化・エコシステム**: OSやAPIの標準を巡る覇権争いが激化

3. 技術動向：ヒューマノイドを支える技術革新

3-1. AI・エンボディドインテリジェンス

2022年以降のAI基盤モデル（GPT-4、Google RT-2等）のブレイクスルーが、ヒューマノイドに意味理解・タスク分解・自律意思決定能力をもたらした。特に注目される技術的進展は以下の通りである。〔18〕

- **シミュレーション学習 (Sim-to-Real)**: 仮想空間で並列多数のロボットを同時にシミュレートし、歩行・転倒・物体操作をコスト効率よく学習。NVIDIAのIsaacシリーズが1,000倍のリアルタイム速度でロボットAIを訓練可能にした〔21〕〔16〕
- **エンドツーエンド学習と大規模行動モデル**: 人間の行動データからAI自らが学習するアプローチにより手作業でのプログラミング依存を脱却
- **デジタルツイン**: 仮想空間での検証・訓練と現実展開を連携させるDX基盤

3-2. ハードウェア技術の進化

- **アクチュエータ**：小型高出力・バックドライバビリティ（外力を柔軟に吸収する特性）を両立したアクチュエータが普及の鍵。日本THKは独自サイクロイドギア+アウターローター型モーターで世界最高水準の走行速度（時速13.8km）を達成〔²²〕
- **デクスタラスハンド（精巧な手）**：5指の個別制御・触覚センサ統合が技術競争の焦点。UBTECHは2025年に第4・第5世代デクスタラスハンドをリリース〔²³〕
- **バッテリー**：平均運用時間が2時間から6時間超に改善、2035年に向けてさらなる延長が見込まれる〔⁷〕
- **製造コスト**：1台あたりの製造コストが2023年推定5万ドル程度まで低下。2030年には5,000～10,000ドル台に達する可能性がある〔⁸〕〔¹⁶〕

4. 特許出願・権利化動向

4-1. グローバル特許出願の全体像

ヒューマノイドロボット関連の特許出願は、2022～2024年にかけて年間2万7,000～2万8,000件台の高水準を維持している。PatSnapの分析によれば、アクチュエータ・モーション制御分野だけで53万件超の特許が蓄積されており、うち15万2,795件が現在有効、5万4,424件が審査中である。〔²⁴〕

重要注記：特許は出願から約18ヶ月後に公開されるため、2025～2026年の出願は2026～2027年以降にデータに反映される。現在公開されている数字は実際の活動水準の「最低値」に過ぎない。〔²⁴〕

4-2. 国別特許出願の比較

過去5年間の国別ヒューマノイドロボット関連特許出願件数の比較は以下の通りである。〔²⁵〕〔²⁶〕〔¹⁷〕

国・地域	過去5年の出願件数	国際順位	備考
中国	7,705件	1位（2021年より）	米国の約5倍
米国	1,561件	2位	
日本	1,102件	3～4位	2016年の2位から後退

韓国	-	-	
----	---	---	--

中国はロボット関連特許総数において、世界上位19か国の合計より22%多い特許を取得済みであり、AI特許全体でも全世界の74.2%を占める。[27][28]

一方で重要な留意点: Tech+IP社の分析では、米国・カナダ・欧州の付与特許・公開出願を対象にした場合、「汎用ロボット訓練・実行」と「デクスラスマニピュレーション」の2大技術領域でTop15に入る20社のうち、北米企業が11社を占め、中国企業はUBTECH 1社のみ（10位）と、中国の特許優位は主として国内出願数に起因しており、海外の権利保護という観点では依然として差があることが示されている。[29]

4-3. 技術分野別の特許動向

三井物産戦略研究所がPatSnapを用いてヒューマノイドロボット特許1,121件（ファミリー）を分析した結果、以下の動向が確認されている。[16]

2020年以降に出願増加率が最大の分野：センシング技術

- 高精度3D画像処理・環境認識アルゴリズムに関する視覚センサ
- 触覚のリアルタイム処理能力向上を課題とした触覚センサ
- マルチモーダルデータのリアルタイム処理を可能とするセンサ統合技術

注目される5大技術サブドメイン（PatSnap Eureka 2026年分析より）[30]

1. Sim-to-Real方策転移（仮想学習を実機に適用する技術）
2. XR支援のテレオペレーションと模倣学習
3. 多感覚ハンド設計と触覚フィードバック
4. 全身・腕・胴体の協調制御
5. デジタルツインによる訓練・検証

HondaはSim-to-Real学習パイプライン特許を積極出願、Boston DynamicsはXR支援遠隔操作特許（完全自律化への橋渡し技術）でポジションを築いている。[30]

4-4. 主要企業のIP戦略

UBTECH（中国）：世界最多の2,985件の付与特許を保有（2025年末時点、前年比11.4%増）。うち海外付与特許508件。フルサイズヒューマノイド特許数で世界1位と公称。中国の人型ロボット国家標準策定をリードする立場にある。^{[31][32][33]}

Alphabet（Google/DeepMind）：米国・カナダ・欧州の特許・出願で450件超のポートフォリオを構築し、デクスタラス制御において競合優位を持つ。^[29]

Hyundai/Boston Dynamics：汎用ロボット訓練・実行とデクスタラスマニピュレーションの両分野でTop3に位置。Hyundai傘下となってから製造力×特許力のシナジーが加速。^{[34][29]}

Sanctuary AI（カナダ）：汎用ロボットとデクスタラスマニピュレーション双方でグローバルTop15に入る重要な特許ポートフォリオを保有し、2030年代以降の100億ドル超市場に向けて戦略的に配置されている。^[29]

Toyota（日本）：Morgan Stanleyの「Humanoid 100」に名を連ね、Boston Dynamicsとの提携によりヒューマノイド開発を加速。^{[35][16]}

4-5. 日本の特許ポジションと課題

日本はフィジカルAI特許で2016年の2位から現在の4位に後退している。川崎重工（15件）、ソニー（技術蓄積あり・製品化検討中）、THK（高速走行技術）、トヨタ（Boston Dynamicsとの提携）などが特許出願を行っているが、量と質ともに中国・米国に引き離されている。^{[26][36][37][22][16]}

日本の課題：

- 特化型産業ロボットの成功体験が汎用ヒューマノイドへの投資を遅らせた
- AI・ソフトウェア（「頭脳」部分）における立ち後れ
- 実環境実証データの取得機会の少なさ（安全性重視の文化的背景）
- SDR（Software Defined Robot）への移行における出遅れ

経済産業省は2025年度中に「AIロボティクス戦略」を策定する方針を示し、骨太方針2025にも「ロボットの実装拡大・競争力強化に関する戦略」の策定が明記されている。^{[38][39]}

5. 今後の展望と戦略的示唆

5-1. 市場・産業の展望

短期（2026～2027年）：テスラがFremont工場でのOptimus製造を本格化。中国では2026年に2万8,000台超の出荷が見込まれる。BYD・吉利・Xiaomiなど中国の主要EVメーカーが自社工場にヒューマノイドを大量投入する動きが加速する。[40][17]

中期（2028～2032年）：物流・倉庫が製造に次ぐ大規模採用市場となる。運用コストが時給2ドル以下に低下することで、従来ロボット化が困難だった業種（建設・飲食・介護）への展開が始まる。Morgan Stanleyは2050年までにグローバルで10億台のヒューマノイドが導入される可能性があるとしている。[17][20]

長期（2035～）：Goldman Sachsは2035年の出荷台数140万台・市場規模380億ドルを予測。ARK Investはヒューマノイドが創出する経済価値を最大24兆ドルと試算している。中国は2050年に3億2,000万台のヒューマノイド（米国7,700万台）を抱える最大の市場・製造拠点となる可能性がある。[41][25][8]

5-2. 特許・IP戦略上の展望と示唆

「スマートフォン特許戦争の再現」リスク：Tech+IPは、スマートフォン産業との類似性を指摘し、中国企業がかつての「特許弱者→積極R&D・特許出願→特許ロイヤルティ受取者」というHuaweiの転換を繰り返す可能性を警告している。Huaweiが現在年間5億ドル超の特許ライセンス収入を得ていることは、ロボット産業でも同様の収益化戦略を採り得ることを示している。[29]

IP戦争の勃発時期：現時点では商業展開が始まったばかりで特許紛争はほぼ発生していないが、市場が本格的な量産・商業段階（2028～2032年頃）に入ると、スマートフォン産業で起きたような激しい特許係争が生じると見られる。この時点で先手のIP構築が完了していることが不可欠である。[29]

競争優位の源泉のシフト：Morgan Stanleyの分析によれば、ヒューマノイドの総製造コストのうち「頭脳（AI・半導体・ソフトウェア）」はわずか4%。残り96%は「身体（アクチュエータ・構造材・センサ）」であり、身体部品の64社のうち中国21社・米国17社が占める。短期的にはハードウェアサプライチェーンの支配力が重要だが、長期的にはソフトウェア・プラットフォーム・AIモデルの特許・著作権・ライセンスが収益の根幹となる可能性が高い。[28]

特許戦略上の優先事項（IP実務家向け）：

1. **ホワイトスペース特定**: 「フリート知能」 (多機体協調) ・ 「家庭用HRI (Human-Robot Interaction)」 ・ 「汎用タスク移植性」 など、IP集中度の低い分野での先行出願^[42]
2. **多管轄出願**: 中国国内出願数は世界一だが、米国・欧州・日本における権利保護は依然として不十分。国際展開を見据えたPCT活用が重要
3. **標準必須特許 (SEP) 戦略**: 中国政府主導の人型ロボット国家標準策定に向けてUBTECHがリード中。SEP化を見据えた技術開発・出願の重要性が増す^[32]
4. **エコシステム特許**: ロボット同士のOSレベルの連携プロトコル、RaaS課金システム、データプラットフォーム等の周辺技術もIP保護の対象として重要性が高い

6. 日本の競争ポジションと戦略的方向性

日本は産業用ロボット市場で約7割のシェアを誇るものの、近年シェアが低下傾向にあり、汎用ヒューマノイド分野での出遅れが明確になっている。^[43]

日本の強み (活かすべき資産) :

- 高精度・高信頼性のアクチュエータ・センサ等のハードウェア技術
- 高齢化・人手不足という実需 (介護・製造・サービス分野の旺盛な導入ニーズ)
- 精密機械加工技術・品質管理ノウハウ
- THK・川崎重工・安川電機等の産業用ロボット蓄積技術

日本の課題 (克服すべき弱点) :

- AI・ソフトウェア (「大脳」) 分野の劣位
- 特許出願数の国際順位低下 (2位→4位)
- 実環境での大規模実証機会の不足
- SDR (Software Defined Robot) 対応の遅れ

経済産業省の「AIロボティクス新戦略検討会」は、日本が「産業用ロボットで培った高度な技術基盤」と「高齢化・人手不足という現場ニーズ」をどう活かすかを議論中である。ソニーCTOは「当社を含む世界のいくつかの企業は、アプリケーションが明確になれば即座にヒューマノイドを製造でき

る技術を蓄積している」と述べており、日本企業の潜在的技術力は決して低くない。問題は「技術蓄積」から「市場展開」への意思決定スピードと規模にある。[³⁷][⁴³]

まとめ：三極構造と収束

ヒューマノイド産業は現在、以下の三極構造が形成されつつある。

- **中国**：量産・出荷・サプライチェーン・国内特許出願数で世界を圧倒。政策支援が強力で、150社超の専門メーカーが市場参入[²⁵]
- **米国**：AI・ソフトウェア・基盤モデル・資金調達力で優位。Tesla・Figure AI・Alphabet等が次世代技術で巻き返しを図る[²⁸][⁴⁰]
- **欧州・日本・韓国**：精密ハードウェア・高信頼性技術・特定応用ニーズで独自のポジションを確立。Hyundai/Boston Dynamicsが欧州・米国特許で存在感を示す[²⁹]

この産業が真の意味での「量産産業」へ移行する2028～2032年の窓口は非常に狭い。この窓口が閉まる前に特許ポートフォリオを確立し、プラットフォーム・エコシステムとしてのIP戦略を打ち立てることが、あらゆる主体にとっての最優先課題となっている。

References

1. [Humanoid Robot Market Set for Rapid Expansion: Size, Share](#) - The global humanoid robot market is expected to grow from USD 2.92 billion in 2025 to USD 15.26 bill...
2. [ヒューマノイドロボットの市場規模、2030年に390億米ドル到達 ...](#) - ZDNET Japanは、CIOの課題を解決するオンラインメディアです。CIOや企業の情報システム部門に向けて、ITを活用した課題解決や価値創造のヒントを提供します。
3. [ヒューマノイドロボットの世界市場レポート 2026年](#) - ヒューマノイドロボット市場規模は近年、飛躍的に拡大しております。2025年の54億4,000万米ドルから2026年には83億2,000万米ドルへと、CAGR52.9%で成長が見込まれております。これま...

4. [Humanoid Robots 2026-2036: Technologies, Markets, and ...](#) - With continued progress in embodied AI and hardware cost reduction, IDTechEx forecasts the humanoid ...
5. [Humanoid Robots Could Become a \\$750 Billion Industry by 2035](#) - AI advances and labor shortages are accelerating adoption, as Europe risks falling behind in a rapid...
6. [Humanoid robots 2026: The convergence moment | Roland Berger](#) - 🗣️ The #HumanoidRobot market opportunity is massive. The deployment window is narrowing. This is not ...
7. [2026年版 世界ヒューマノイドロボット市場の現状と将来展望](#) - ～自動化は不可避の潮流、市場は未曾有の成長期へ～ 成長ドライバーは「政策支援」と「ユースケース拡張」
8. [ヒューマノイドロボットの未来予測2030 | 家庭・工場・介護はどう ...](#) - Goldman Sachsは2030年に25万台以上、2035年に140万台のヒューマノイド出荷を予測・製造コストは年40%で低下 → 2030年には1台\$5,000～\$10,000の可能性
9. [China vs. U.S. Humanoid Robot Race: Shipments vs. Valuations](#) - China leads in global humanoid robot shipments while U.S. startups command outsized valuations. A de...
10. [China's Humanoid Robot Supply Chain in 2026 - SCI.AI](#) - China's humanoid robot industry is surging ahead, with Unitree shipping 36x more units than U.S. riv...
11. [Humanoid robot actuators: 530,554+ patents analysed - PatSnap](#) - Chinese manufacturers led global humanoid robot shipments in 2025, with production volumes exceeding...
12. [Tesla Optimus Production: Model S Ends, Humanoid Robots Begin ...](#) - Tesla is ending Model S/X production in Q2 2026 to convert Fremont factory for Optimus humanoid robot...
13. [Tesla pushes Optimus V3 reveal later this year - again - Electrek](#) - In January 2025, Musk said Tesla would build 10,000 Optimus robots that year. By January 2026, he a...
14. [Humanoid Robots in 2026: Tesla Optimus, Figure AI, Boston ...](#) - Tesla Optimus is in R&D. Figure AI is in a BMW factory. China is shipping 20000 units. Here's where ...

15. [\[PDF\] ヒューマノイド ロボットから 産業の現実へ - Fujitsu](#) - エコシステムは急速に形成されつつあります。* ... 一方で、Boston Dynamics は CES 2026 においてヒューマノイド「Atlas」の量産モデルを発表し、研究.
16. [\[PDF\] ヒューマノイドロボット - Mitsui](#) - ヒューマノイドロボットに関する知財分析として、文献をAIにより解析し“Humanoid robot”のタグが付. 与された特許データを抽出し、技術をめぐる状況を分析 ...
17. [中国のヒューマノイドロボット関連特許出願件数が米国より5倍多い ...](#) - 報告書によると、この5年間、中国のヒューマノイドロボット関連特許出願数は7705件で、米国の1561件より5倍ほど多かった。日本が1102件でその次だった。
18. [Embodied AI and Humanoid Robot Market Research 2024-2025](#) - In 2025, the global humanoid robot industry is at a critical turning point from technology verificat...
19. [ヒューマノイドロボット市場 | 市場規模 分析 予測 2026-2032年 ...](#) - ヒューマノイドロボット市場は、2025年に29億1,000万米ドルと評価され、2026年には36億4,000万米ドルに成長し、CAGR25.80%で推移し、2032年までに145 ...
20. [From sci-fi to reality: Humanoid robots could soon be as big as auto ...](#) - Development of humanoid robots is picking up pace, and if current trajectories hold, robotics manufacturing...
21. [Humanoid Robots 2026: Tesla Optimus, Figure 02 & NVIDIA Isaac ...](#) - In early 2026, Tesla announced plans to expand the number of Optimus units on production lines to see...
22. [大阪・関西万博にも出展！速さに挑むヒューマノイドロボット ...](#) - [THK](#) - 大阪・関西万博にも出展！速さに挑むヒューマノイドロボット FRED (フレッド)
23. [UBTECH Humanoid Revenue Surges in 2025 Results](#) - As of December 31, 2025, UBTECH held 2,985 authorized patents, including 508 overseas. Implications ...
24. [Humanoid robot actuators: 530,554+ patents analysed - PatSnap](#) - Annual patent filings across motion control and actuation systems have remained above 27,500 per year...

25. [China Dominates Humanoid Robotics with 7,700 Patents and an ...](#) - 7,705 humanoid patents filed in five years by China versus 1,561 in the United States. Nearly 90% of...
26. [ロボット大国の慢心が招く危機。フィジカルAI特許で中国が米国の5倍](#) - 国別では中国が1位、米国が2位、日本は4位（2016年の2位から後退）となりました。ヒューマノイド関連の特許数は中国7,705件に対し米国1,561件で、約5倍の差 ...
27. [China closes the AI model gap but trails the U.S. on investment and ...](#) - China accounted for 54% of global industrial robot installations in 2024, and its humanoid robots ...
28. [中国のヒューマノイドロボットにおける特許とサプライチェーンの ...](#) - この期間中、中国が取得したロボット関連特許は、世界でそれに続く上位19か国の合計よりも22%多いというデータもあります。中国がヒューマノイドロボット ...
29. [When will the humanoid patent wars break out? - Tech IP |](#) - In this article we provide data and insights into the evolving patent landscape of humanoid robots w...
30. [Humanoid Robot Dexterous Manipulation 2026](#) - Humanoid Robot Dexterous Manipulation 2026 - PatSnap Eureka Tools Save to Eureka Save to your Eureka...
31. [UBTECH 2025 Annual Results: A Historic Breakthrough We are ...](#) - 🌐Global No.1 in humanoid robot patents granted: 2,985 Foreign ownership: 15.96% → 35.96% Walker seri...
32. [UBTECH leads world in full-size](#) - UBTECH was the world's only company to deliver more than 1,000 full-size embodied intelligent humano...
33. [UBTECH 2025 "Report Card": Revenue from Full-Size Humanoid ...](#) - As of December 31, 2025, UBTECH held 2,985 authorized patents, up 11.4% from the end of 2024. Of the...
34. [Patents Powering Boston Dynamics' Advanced Robotics Innovations](#) - Learn about the patents behind Boston Dynamics' advanced robotics innovations, driving breakthroughs...
35. [\[PDF\] The Humanoid 100: Mapping the Humanoid Robot Value Chain](#) - · Companies in Humanoid 100: BYD (002594-CN), GAC Group (2238-HK), Hyundai /. Boston Dynamics (00538...

36. ヒト型ロボット、自動運転…… 「フィジカルAI」特許 破竹の中国 - 特許が出願された国別の集計では、2021年に中国が米国を破竹の勢いで抜き去った。16年に2位だった日本は、今や4位に転落した。ロボティクスは産業用を ...
37. ソニーがヒューマノイドロボットの技術を持っていると主張 - 「技術に関して言えば、当社を含む世界のいくつかの企業は、どのような用途が有望か明らかになれば、すぐにでもそれを作るのに十分な技術を蓄積している」 ...
38. 経産省、「AIロボティクス」戦略を年度内策定へ 有識者検討会で議論 - 経済産業省は、AI（人工知能）を活用し自律性を高めたロボット技術「AIロボティクス」を巡る日本の方向性を探るため、有識者検討会を立ち上げた。
39. ロボット戦略策定に向けた政府の取り組み（2025年11月27日 No. 3707） - ロボティクス分野の生成AI基盤モデルの開発に有効なデータプラットフォームの研究開発事業では、24年12月に設立したAIロボット協会（AIRoA）を採択した。
40. The humanoid arms race: can the U.S. and China actually coexist? - Investing.com -- The global race for humanoid robots is getting crowded. For years, the narrative wa...
41. 未来学者が選出、世界の「人型ロボット」メーカー主要16社の内訳 - ゴールドマン・サックスは、2035年までにヒューマノイドの市場規模が380億ドル（約5兆9000億円）に達すると予測しているが、アーク・インベストは ...
42. Autonomous warehouse robot tech landscape 2026 - PatSnap - Explore the 2026 autonomous warehouse robot technology landscape: patent trends, key assignees, RL n...
43. AIロボット新戦略へ検討会 8月末の議論で米中への危機感あらわ - 経済産業省は、日本のAI・ロボット産業の巻き返しに向けた新たな国家戦略の策定に着手している。8月29日に開催された「AIロボティクス新戦略検討会」 ...